



あかるく元気な子 だれにも親切な子 しつかり考える子 ことばを大切にする子

この世をば わが世とぞ思ふ…



○「この世をば わが世とぞ思ふ 望月の かけたることも なしと思へば」

「この世は自分のためにあるようなものだ。満月の欠けたことがないように。」
＝「もう自分の思うようにならないことは一つもない。」という意味になるのでしょうか。平安時代の貴族、藤原道長の言葉です。道長は、彼の悲願であった藤原摂関家の揺るぎない地盤の完成を確信したため、栄華の象徴としてこの歌を詠んだと言われています。

しかし、自分自身に自信をもつことは大切ですが、それが過信となってしまっただけではその後の成長が止まってしまいます。満月になれば、次の日からは欠けていきます。一つのことを成し遂げて満足したからといって、そこで努力をやめてしまうと力は落ちていくばかりです。



本校児童は、先日の運動会で素晴らしい演技や競技をすることができました。でも、それで満足してしまったのでは、せっかく身につかかけた主体性を次につなげることができません。やればできた力を信じて、もっともっと主体的により高い目標に向かって努力を続けることが大切なのです。

というような話をしようかと思っていたら…。

運動会が終わってすぐの火曜日の朝、校門前に桜の落ち葉が散らばっているのを見て、登校してきた6年生が竹箒を使って掃除をしているではありませんか。次の日も、そのまた次の日も…。そして6年生に混じって5年生の姿までも…。(現在も続いています。)

本校児童は、そんな話を聞かなくても、運動会で身につけた力を既に次の活動へと生かしています。藤原道長の「この世をば わが世とぞ思ふ…」という歌は、阿太小学校の子どもたちには必要のない言葉だったのかもしれませんが。



○学習でも主体性を発揮して、一人一人がそれぞれのてっぺんを目指せ！

運動会の後、「一学期に比べて授業で手を挙げる回数が増えた。」「授業の中での話し合いで、積極的に意見を言おうとする気持ちが確かに感じられた。」「グループで話し合うとき、自然に司会や記録を決めて進めていける力がついた。」「日頃、学習にも話し合いにも苦手意識をもっていたが、委員会活動で積極的に発言する姿が見られた。」などの声が、各学年から聞こえてきます。

運動会という大きな取組をきっかけにして、学習にも主体的に取り組もうとする姿が見られるのはうれしいことです。みんなで一つのてっぺん（目標）に向かって歩みを進めることも大切ですが、一人一人がそれぞれのてっぺん（目標）に向かって努力することも大切です。運動会で身につけた主体性を学習でも発揮して、それぞれがそれぞれのてっぺん（目標）を目指して頑張ることで、自分の力や可能性をさらに伸ばしてほしいと思います。

